

# 高千穂交易、東南ア拡販

## 30年度 海外売上高比率4割に

高千穂交易は2025年度から始動する次期中期経営計画で、30年度までに海外売上高比率を4割程度とする目標を設定する。東南アジア地域でのビジネスを強化し、現在の同比率3割程度から引き

上げる。米中対立を背景に中国でサプライチェーン（供給網）の再編が進む中、同地域への日本企業の進出が増加すると判断。半導体やクラウドソフトなどを拡販し海外事業の成長を目指す。

高千穂交易は海外拠点として中国やタイ、シンガポール、米国に関連会社を持つ。このうち東南アジアではタイの電子部品商社のM&A（買収・合併）も視野に、東南アジアで

事業	資本政策	経営基盤
<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスビジネスの成長</li> <li>システム・デバイスの付加価値アップ</li> <li>M&amp;Aによる事業成長加速</li> </ul>	利益成長により、1株当たりの配当は維持・増加を目指す（大幅な減配はない方針）	事業成長を促すため、人材育成を強化

同社の決算資料を基に作成

現在、同社は22―24

の事業体制を強化する。また同国で展開する防火事業などのリソース配分を見直して収益性を高める。

一方、中国では半導体などを販売するデバイス事業を展開中。今後は中国企業への営業活動を強化するなどとして中国売上高を維持する方

年度の中期経営計画を進めており、売上高260億円、当期利益14億円を目標に掲げる。

25年3月期は売上高269億円、当期利益14億9000万円を見込んでおり、現中期経営計画の目標は達成する見通しだ。